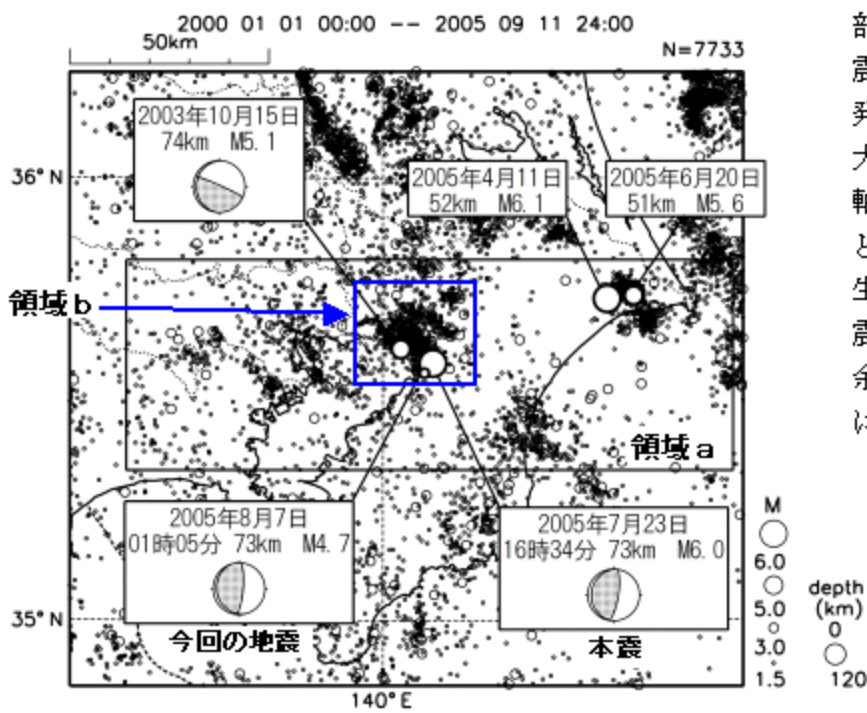
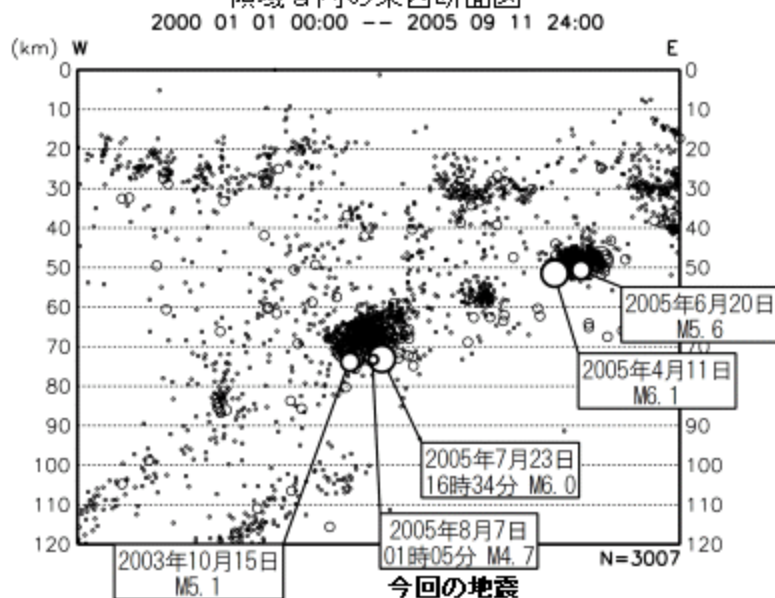


8月7日 千葉県北西部の地震

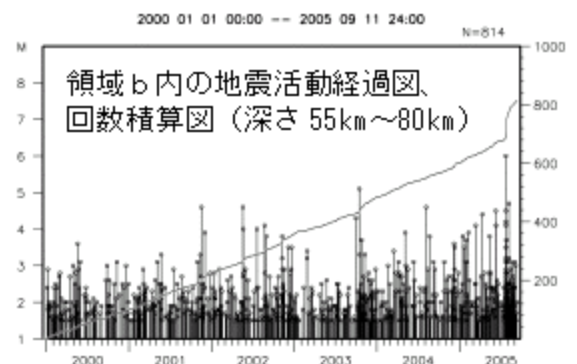
A 震央分布図 (2000年以降、 $M \geq 1.5$)



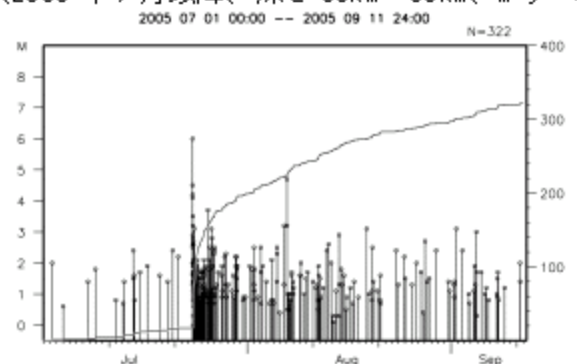
領域 a 内の東西断面図



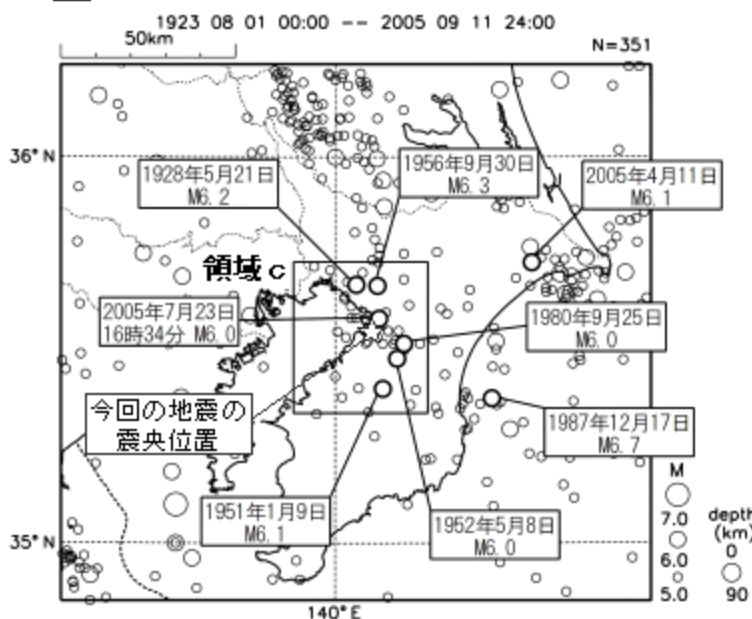
2005年8月7日01時05分に千葉県北西部の深さ73kmでM4.7(最大震度4)の地震が発生した。この地震は、7月23日に発生したM6.0(最大震度5強)の地震の最大余震である。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震である。この地震の後、若干地震の増加が見られたが、余震活動は本震-余震型で推移しており、以前の活動レベルに戻りつつある。(A)



領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図 (2005年7月以降、深さ55km~80km、Mすべて)



B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$)



1923年8月以降、この付近では今回の地震の本震も含めM6.0以上の地震が6回観測されている。1950年代にはM6.0以上の地震が3回観測されており、地震活動がやや活発であった。(B)

